

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標……………親和協力の校訓のもと、心身ともに健やかに、豊かな人間性と主体性をもち、広く社会に貢献できる人物を育成する。</p> <p>平成23年度めざす学校……………『明るく』『元気に』『楽しく』『夢の実現をめざす学校づくり(満足度100%の学校)』</p> <p>生徒チャレンジ目標……………○ 時間厳守 ○ 挨拶の励行 ○ 服装を整える</p>
<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>① 特色ある学校づくり・魅力ある学校づくりを推進し、満足度100%の学校づくり ② 「基本的な生活習慣の確立」のため全教職員が連携協働し、きめ細やかな指導を推進 ③ 3年間を通じた計画的な進路指導、特に個人データの継承方法等効果的な進路指導の推進 ④ 本校のキャリア教育の中核となる「職場体験学習」等の検討・改善 ⑤ 和やかな雰囲気のもと、業務量の均等化をはかり、教職員が生き生きと連携協働できる職場づくりの確立</p>
<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>次の3点について重点的に取り組みたい。</p> <p>① 社会の一員として生きていくために必要なコミュニケーション能力の育成 ② 『生徒の夢の実現』を第一に考えた教師集団づくり ③ 地域に信頼され、愛される学校づくりの推進</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等		
学 習 指 導	・基礎学力の向上と実力の養成	・教育課程の検討及び改善	4. 教育課程が十分改善された。 3. 教育課程が概ね改善された。 2. 教育課程は見直されたが、ほとんど改善されなかった。 1. 教育課程はほとんど見直されなかった。	4	・平成24年度及び平成25年度の新人学生教育課程を完成させた。 ・生徒による学校評価アンケートの結果では、「自分の興味・関心、進路に応じた選択科目が設置されている。」の項目で、「そう思う/だいたいそう思う」が、84.1%であった。	・分枝化・新教育課程に対応した改善された教育課程を構成している。 ・朝の漢字学習を取り入れ、生徒の基礎学力向上に熱心に取り組んでいる。 ・家庭との連携も概ねとれていると思う。		
			4. 授業研究が十分推進された。 3. 授業研究が概ね推進された。 2. 授業研究があまり推進されなかった。 1. 授業研究がほとんど推進されなかった。	4	・生徒による授業アンケートの結果では、「授業のねらいやポイントがよくわかりますか。」の項目で、「そう思う/やそう思う」が78.0%であった。 ・保護者による学校評価アンケートの結果では、「教員は適切に授業を行っている。」の項目で、「そう思う/だいたいそう思う」が93.3%であった。			
			4. 家庭との連携が十分推進された。 3. 家庭との連携が概ね推進された。 2. 家庭との連携があまり推進されなかった。 1. 家庭との連携がほとんど推進されなかった。	3	・各担任による家庭との連携はもとより、PTA活動や行事等において担当各課が家庭との連携を積極的に行った。 ・保護者による学校評価アンケートの結果では、「教員はPTA活動に協力的である。」の項目で、「そう思う/だいたいそう思う」が93.3%であった。			
			4. 朝の漢字学習を行うことで生徒の基礎学力が十分向上した。 3. 朝の漢字学習を行うことで生徒の基礎学力が概ね向上した。 2. 朝の漢字学習を行うことで生徒の基礎学力が少し向上した。 1. 朝の漢字学習を行うことで生徒の基礎学力が向上しなかった。	3	・意欲的に取り組み好成績をあげている生徒がいる一方で、前向きに取り組んでいない生徒もいる。生徒全体のやる気をどう引き出していくのが今後の課題である。			
	・学習環境の充実	・授業規律を確立	4. 教室内の整理が徹底された。 3. 教室内の整理が概ね徹底された。 2. 教室内の整理があまり徹底されなかった。 1. 教室内の整理がほとんど徹底されなかった。	3	・担任、授業担当者により随時指導を行った。また、全校集会時等において指導を行った。 ・生徒による学校評価アンケートにおける評価では、「教室内は整頓されている。」の項目で、「そう思う/だいたいそう思う」が67.1%であった。 ・今後も引き続き、重点事項として指導を続けたい。		・生徒は落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・学習環境の充実については、今後もしっかりと取り組んでほしい。	
			4. ほとんどの生徒がチャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機していた。 3. かなりの生徒がチャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機していた。 2. チャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機している生徒は約半数であった。 1. チャイムが鳴るまでに授業の準備をして待機している生徒はほとんどいなかった。	3	・授業担当者により随時指導を行った。また、授業時以外にも、全校集会時等において指導を行った。 ・生徒による授業アンケートの結果では、「あなたは、きちんと準備をして授業に臨んでいますか。」の項目で、「そう思う/やそう思う」が8.2%、「あなたは、授業に集中して取り組んでいますか。」の項目で、「そう思う/ややそう思う」が88.8%であった。 ・今後も、継続して、教務・教科で連携して指導を行っていく。			
			4. 全生徒が主体的に読書していた。 3. かなりの生徒が主体的に読書していた。 2. 本は準備しているが、読書をすすめる生徒はあまりいなかった。 1. 本の準備をしている生徒が、あまりいなかった。	3	・多くの生徒が主体的に読書しており、静かな雰囲気の中で朝の10分間を過ごしている。 ・図書委員会の生徒が中心となって図書便りを発行し、面白い本の紹介をしてくれた。			
	・開かれた学校づくり	・授業公開の充実	4. 体験入学が充実していた。 3. 体験入学が概ね充実していた。 2. 体験入学が、あまり充実していなかった。 1. 体験入学がほとんど充実していなかった。	3	・昨年より早く案内を送付したが、参加中学生が昨年度37名から今年度26名と減少した。理由としては、分枝化が発表されたこと、地元の中学生の数が減っていることがあげられる。 ・参加した生徒から「聴けなかった」とか、「好意的なアンケート結果が得られており、概ね充実していたと言える。」等、参加者を増やす工夫が今後の課題である。			・体験入学の日程(休日実施)や内容に工夫がなされており、評価できる。頑張っているが、生徒数の減少と言ったこともあり、参加者減少は仕方ないのではないか。 ・高校の授業参観を良く実施しており、今後も継続してほしい。高校生になると、親の親の親をいやがる面もあると考えるが、保護者同士のつながりを深める効果もあると考えられる。
			4. 授業公開が充実していた。 3. 授業公開が概ね充実していた。 2. 授業公開が、あまり充実していなかった。 1. 授業公開がほとんど充実していなかった。	3	・2回目の授業公開を実施し、山防地区の中学校、高等学校、在校生の卒業中学校に案内を出している。他校からの案内が年1回であることと考えると十分充実していると考えられる。 ・第1回5名、第2回3名と参加者が少ないことが今後の課題である。 ・今年度は11月19日に分枝化に伴う説明会を実施したが、中学生6名、保護者12名、中学校教諭10名の参加があった。			
	・服装頭髪検査の実施と指導の徹底	・服装頭髪検査の徹底	4. 服装頭髪指導が十分行われ、効果が上がった。 3. 服装頭髪指導が行われ、概ね効果が上がった。 2. 服装頭髪指導が十分に行われず、あまり効果が上がらなかった。 1. 服装頭髪指導がほとんど行われず、効果が上がらなかった。	3	・年間10回の服装頭髪指導を行い、改善が見られない生徒については再指導を行った。多くの生徒は達成もよく良い身だしなみが定着している。一部の生徒は違反を繰り返して何度も指導しないと改善できない状態がある。			
4. 遅刻や授業時の遅刻がなくなった。 3. 遅刻や授業への遅刻がかなり減った。 2. 遅刻や授業への遅刻が変わらなかった。 1. 遅刻や授業への遅刻が増えた。			3	・遅刻は昨年度の約30%に減った。昨年度まで不注意で遅刻していた生徒の多くは改善され時間厳守が身についている。一部の生徒が何度も遅刻を繰り返して指導を繰り返した。そのような生徒の改善できれば遅刻は0に近づけることができる。				

生徒	・基本的生活習慣の確立	<p>4.登校時の立番により、挨拶等マナーの向上が十分達成された。</p> <p>3.登校時の立番により、挨拶等マナーの向上が概ね達成された。</p> <p>2.登校時の立番により、挨拶等マナーの向上があまり達成されなかった。</p> <p>1.登校時の立番が十分に行われなかった。</p>	3	・隔月で登校指導を行った。生徒安全体育課の教員と室長・副室長で行い、挨拶・服装・マナーアップ向上を図った。登校時の様子は良好であった。	A
	・清掃活動、校内の整理整頓の徹底、ゴミの減量化の実施	<p>4.清掃活動、校内の整理整頓、ゴミの減量化適化が徹底され、新たに設置した生徒環境美化委員が十分機能した。</p> <p>3.清掃活動、校内の整理整頓、ゴミの減量化適化が実施され、新たに設置した生徒環境美化委員が活動した。</p> <p>2.清掃活動、校内の整理整頓、ゴミの減量化適化がなされたが、十分とは言えない。</p> <p>1.清掃活動、校内の整理整頓、ゴミの減量化がなされなかった。</p>	3	・ゴミの持ち帰りを指導し、排出方法や分別を徹底した。校内でのゴミ状況はかなり改善された。教室内の整理整頓ができていない所があり指導した。 ・新たに設置した環境美化委員は緑のカーテンの設置・管理、学校内外の環境美化へ取り組み成果を上げた。	
	・毎日の健康観察により生徒の健康状態を把握し、健康の維持増進への指導を充実させる。	<p>4.毎日の健康観察がなされ、健康状態の把握と健康維持・増進への指導が徹底された。</p> <p>3.毎日の健康観察がほぼなされ、健康状態の把握と健康維持・増進への指導がされた。</p> <p>2.毎日の健康観察がなされ、健康状態の把握と健康維持・増進への指導はされなかった。</p> <p>1.毎日の健康観察がされず、健康状態の把握と健康維持・増進への指導もされなかった。</p>	4	・毎日の健康観察が朝のホームルームで行われた。担任の観察と健康観察表への記載、養護教諭の確認と健康把握が行われた。指導の連携が確立し生徒の健康管理に役立った。	
安全	・交通安全教室、危機回避教室、サイバー犯罪防止教室、薬物乱用教室を通じ危機回避能力を高める。	<p>4.各講座が全て実施され生徒の危機回避能力が高まった。</p> <p>3.ほぼ全ての講座が実施され、生徒の危機回避能力が概ね高まった。</p> <p>2.各講座の内、実施できなかったものもあり、危機回避能力の向上にあまり効果がなかった。</p> <p>1.講座が実施されず危機回避能力の向上は見られなかった。</p>	4	・全ての講座が実施され、危険予知と安全な行動がとれる基礎ができた。生徒が事故や犯罪に巻き込まれることもなく安全な日々が送れている。	A
	・命を大切に	<p>4.各点検を適切に実施し、自転車・原動機自転車等の整備が徹底され、交通マナーの向上が見られた。</p> <p>3.各点検を実施し、自転車・原付自転車の整備が行われ原付自転車向上につながった。</p> <p>2.各点検がやや不十分であったため、自転車・原動機付自転車の整備が十分とは言えず交通マナー向上につながらなかった。</p> <p>1.各点検が不十分であったため、自転車・原付自転車の整備ができておらず、交通マナー向上にも効果がなかった。</p>	4	・原付自転車通学者が生徒の15%となった。毎月の走行距離の確認と隔月の安全点検を実施した。サマースクールを開催し安全協会の方に指導していただき安全な運転の仕方を徹底した。自転車点検も年2回行い整備不良等もなく良好な安全意識が確立している。	
育成	・自立心を育て、社会的に自己実現ができるような資質・態度の育成	<p>4.学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動が充実していた。</p> <p>3.学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動が概ね実施していた。</p> <p>2.学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等があまり行われなかった。</p> <p>1.学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等がほとんど行われなかった。</p>	4	・文化祭、クラスマッチ等の生徒会主体の活動では、顧問教員の指導の下、生徒が主体的に企画立案を行い運営できた。 ・部活動では、ボクシング部が選手としての団体出場とボクシング会場の補助員として活動した。他の部も少ない人数の中、積極的な活動を行った。 ・ボランティア活動では多くの生徒が様々な事に参加した。そして、今までの活動が評価されて文部科学大臣から表彰を受けた。	・ボランティアを良くやっている。命を大切にするという取組は非常に良い。安全マップの作成も評価したい。 ・各種の安全教室が計画的に良く行われており、効果が上がっていることがうかがわれる。
	・校内でのマナーアップを目指した啓蒙活動を行う。	<p>4.校内外の巡視指導による声かけと生徒指導通信の発行によりマナーアップに向けての啓蒙活動が十分行われマナーの向上が達成できた。</p> <p>3.校内外の巡視指導による声かけと生徒指導通信の発行によりマナーアップに向けての啓蒙活動が行われマナーの向上が概ね達成された。</p> <p>2.校内外の巡視指導による声かけと生徒指導通信の発行によりマナーアップに向けての啓蒙活動があまり行われず、マナーの向上があまり達成されなかった。</p> <p>1.校内外の巡視指導による声かけと生徒指導通信の発行によりマナーアップに向けての啓蒙活動が行わずマナーの向上につながらなかった。</p>	4	・全ての教員が分担で昼休み・放課後の校内外の巡視を毎月実施した。指導を必要とすることもなく全体的に改善されマナーの向上が見られた。 ・生徒安全体育課の教員が不定期に通学路、バス停等を巡視しマナーアップを図った。	・ボランティア活動をしている感じの良い生徒の姿をよく見かける。 ・生徒数は少ないが、部活動にも良く取り組んでいる。ボクシング部はおいでませ山口団体に出場し、Oと共に出陣したことを評価したい。 ・マナーアップをさらに頑張してほしい。
育成	・課外学習・模擬試験の推進	<p>4.課外や模擬試験等が十分に実施された。</p> <p>3.課外や模擬試験等が概ね実施された。</p> <p>2.課外や模擬試験等があまり実施されなかった。</p> <p>1.課外や模擬試験等がほとんど実施されなかった。</p>	3	・看護医療系や小論文、公務員模試等の生徒の実態に応じた進学・就職模試を実施した。生徒に案内した模試回数 32回 ・少数ではあるが、自分の進路に応じた模試を受験した。 受験生徒数28名(1月末) 課外の受講生徒数は、今年度延157名、今後も学力向上のため来年度は積極的に呼びかけていきたい。	・進学・就職と、きめ細かな指導がなされており、それが生徒の進学・就職状況に反映されている。 ・進路だよりをはじめ、情報発信を良く行っており、提供される情報量も多くしかも長く整理されていると感じる。
	・生徒一人ひとりが自己を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度の育成	<p>4.個々に応じた指導・面談が十分行われた。</p> <p>3.個々に応じた指導・面談が概ね行われた。</p> <p>2.個々に応じた指導・面談があまり行われなかった。</p> <p>1.個々に応じた指導・面談がほとんど行われなかった。</p>	4	・3学年は全員、個人面談を行い、希望の変更や不合格の場合は早期に面談を行い、進路決定まで学年と連携して個々に応じて徹底的に指導を行った。 2年生は進路希望調査実施後、進路指導室にきて自分の進路選択について相談に来る生徒が増えた。また、1、2月に全員と個人面談を行った。 1年生は1学期に全員と進路面談を実施した。	A

進 路 指 導		・進路情報提供の推進	4.進路に関する情報が十分提供された。 3.進路に関する情報も概ね提供された。 2.進路に関する情報も十分提供されなかった。 1.進路に関する情報もほとんど提供されなかった。	4	・進路だよりをほぼ1回発行、1月現在で9回発行し、就職状況や進学状況、卒業生の体験談、進路関係行事等の情報提供を行った。 ・進路のしおりを刷新し、2年連続発行した。 ・進路情報提供に対する生徒の満足度について 進学関係:87.5%(12月現在) 3年間の平均84.8% 就職関係:87.5%(12月現在) 3年間の平均84.1% ・進路情報提供に対する保護者の満足度について 進学関係:89.3%(12月現在) 3年間の平均86.9% 就職関係:89.3%(12月現在) 3年間の平均85.2%	
		・総合的な学習の時間の充実	4.総合的な学習の時間が充実し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が十分育成された。 3.総合的な学習の時間が充実し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が概ね育成された。 2.総合的な学習の時間があまり充実せず、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が十分育成されなかった。 1.総合的な学習の時間がほとんど充実せず、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が育成されなかった。	3	・総合的な学習の時間を活用し、進路指導課が企画・運営を担当することで、学年と連携しながら計画的にきめ細かく進路学習を実施することができた。 ・2学年は、職場体験の事前・事後発表会ではパワーポイントを用いて個人個人が考えて発表することができた。また、依頼文、礼状なども自分で1から作成した。	・キャリア教育に熱心に取り組む、成果を上げている。 ・体系的な活動を通じてのキャリア教育が適切に行われている。 ・外部人材をうまく取り入れて活用しており、特にライブプログラミング講座については高く評価した。
		・社会的・職業的自立に必要な能力・態度の育成	4.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等が充実し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が十分育成された。 3.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等が充実し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が概ね育成された。 2.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等があまり行われず、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が十分育成されなかった。 1.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等がほとんど行われず、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が育成されなかった。	4	・6月に全学年対象の社会人講話、7月に1、2年は校外研修、3年は1日進路セミナー、8月に3年生対象の就職支援セミナー、10月に1年対象のライブプログラミング講座、11月に2年対象の就職支援セミナーを実施した。生徒も大変意欲的に取り組み、社会人としてのマナーを身につけることができた。 ・3年の1日進路セミナーでは6名の卒業生を招いて、座談会を実施し、3年生1人が卒業生3名の体験談を聞くことができた。 ・職場体験は、1年間を通した事前事後指導を行い、事前・事後発表会を実施した結果、職業的・社会的自立に向けた能力・態度が育成された。	
		・体験的な進路学習の効果的な活用	4.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等が充実し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が十分育成された。 3.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等が充実し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が概ね育成された。 2.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等があまり行われず、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が十分育成されなかった。 1.進路説明会・就職支援セミナー・職場体験等がほとんど行われず、社会的・職業的自立に必要な能力・態度が育成されなかった。	4	・6月に全学年対象の社会人講話、7月に1、2年は校外研修、3年は1日進路セミナー、8月に3年生対象の就職支援セミナー、10月に1年対象のライブプログラミング講座、11月に2年対象の就職支援セミナーを実施した。生徒も大変意欲的に取り組み、社会人としてのマナーを身につけることができた。 ・3年の1日進路セミナーでは6名の卒業生を招いて、座談会を実施し、3年生1人が卒業生3名の体験談を聞くことができた。 ・職場体験は、1年間を通した事前事後指導を行い、事前・事後発表会を実施した結果、職業的・社会的自立に向けた能力・態度が育成された。	
教 育 相 談		・生徒指導・教育相談委員会等、必要に応じた情報交換の実施	4.時宜を得た情報交換により、生徒への理解が十分深まった。 3.時宜を得た情報交換により、生徒への理解が概ね深まった。 2.情報交換があまり行われず、生徒への理解も十分でなかった。 1.情報交換がほとんど実施されなかった。	4	・生徒指導・教育相談委員会を定期的に開催し、情報交換を行った。 ・必要に応じて事例検討会を開き、個別の生徒に対する今後の指導方針等話し合い、職員会議も報告だけでなく情報共有の場として活用することで、生徒への理解が深まった。	・様々な事情を抱えた生徒に対しての良い体制ができてい事がうかがわれる。 ・スクールカウンセラー等をうまく活用して教育相談の効果も上げている。
		・実態把握に努めるため、生徒に対して年2回の面談週間、年5回のアンケートを実施	4.面談週間やアンケートを実施した実態把握が十分できた。 3.面談週間やアンケートを実施した結果、実態把握が概ねできた。 2.面談週間やアンケートがあまり行われず、実態把握も十分でなかった。 1.面談週間やアンケートがほとんど実施されなかった。	4	・生活全般に関するアンケートを各学期当初に実施し、累計の結果から全体の傾向と個別の生徒の状況を把握し、必要に応じて個別対応も行った。 ・1年生は1学期に心理検査を実施した。教職員は専門家から検査結果の見方を研修し、事後の対応に生かした。 ・いじめに関するアンケートを2回、教育相談全般に関するアンケートを3回実施し、実態把握に努めるとともに、面談週間にその結果を生かすことができた。	
		・生徒・保護者・教職員へ『たより』や校内研修の実施	4.『たより』や校内研修を実施した結果実態把握が十分できた。 3.『たより』や校内研修を実施した結果、実態把握が概ねできた。 2.『たより』や校内研修があまり行われず、実態把握も十分でなかった。 1.『たより』や校内研修がほとんど実施されなかった。	4	・保護者向け『たより』の発行回数を昨年度より増やし、4回とした。 また、『佐渡高校ブログ』やPTA総会等で教育相談課の取り組みや活動内容に関する情報を発信した。 ・保護者対象アンケートを実施し、家庭での様子や悩み等の実態把握に努めた。 ・来年度は、『たより』の発行回数を増やして、さらに保護者との連携を図りたい。 ・特別支援学校の地域コーディネーターを招いた実践的な研修やSCによる教育相談にかかわる研修など、校内研修を4回実施し、先生方の実践に役立っている。	
		・スクールカウンセラー及び外部専門機関との連携、支援体制の整備	4.外部専門機関等を効果的に活用した。 3.外部専門機関等を概ね効果的に活用した。 2.外部専門機関等をあまり活用することができなかった。 1.外部専門機関等をほとんど活用することができなかった。	4	・教師とSCで連携して、不登校などの学校生活への不適応状態にある生徒への支援を実施してきた。さらに、外部の専門機関なども連携することで適切に支援を行うことができた。	
・人権意識の確立と人権を守る態度の育成		・年間計画に沿った人権教育の実施	4.年間計画に沿って、人権教育を実施し、人権意識の確立などの成果が見られた。 3.年間計画に沿って、人権教育を実施し、概ね成果が見られた。 2.年間計画には沿って、人権教育を実施したが、あまり成果がみられなかった。 1.年間計画に沿って、人権教育を実施できなかった。	4	・各教科やHR等で年間計画に沿って、人権教育を実施し、人権意識の確立などについて成果が見られた。	・おいでませ山口大会にあわせてバスケットボール選手の講演を企画するなど、タイムリーな行事・企画がなされており、それが生徒のためになっていると感じる。 ・校内の研修も適切になされている。
		・教職員の意識高揚のための研修の実施	4.教職員の研修を実施したため、教職員の意識の高揚が見られ、授業に活用できた。 3.教職員の研修を実施したため、教職員の意識の高揚が見られた。 2.教職員の研修は実施したが、教職員の意識の高揚はあまり見られなかった。 1.教職員の研修が実施されなかった。	3	・外部講師を招いて実施した、生徒と保護者に向けた人権教育講演会は校内研修会としても有益で、教職員の人権意識も高まった。この単椅子バスケットボールの選手による講演は、山口県で障がいしゃのための団体が開かれたこともあって、生徒にも保護者にも好評であった。なお、事後指導を兼ねて『人権教育だより』を発行し、保護者に向けての啓発活動にも努めた。 ・人権にかかわる内容を含む、教育相談及び特別支援教育に関する校内研修を4回実施して、教職員の意識の高揚が見られた。	

A

A

A

業 務 改 善	学校の組織等		4.他学年・他分掌の業務内容の共有が充分できて、積極的に支援・協力をすることができた。 3.他学年・他分掌の業務内容の共有が概ねできて、支援・協力をすることができた。 2.他学年・他分掌の業務内容の共有は難しかったが、要請に応じて支援・協力をすることができた。 1.他学年・他分掌の業務内容の共有がほとんどできなかった。	3	概ねできている。各課・各学年が主催する様々な行事が主体的・計画的に実施され、協力・連携体制も構築できた。 特にキャリア教育における進路面談や職場体験、面接指導などでは学年や分掌を超えた協力体制が構築され、業務が円滑に行えた。また、交通安全に関する業務(原付指導・自転車点検)等も協力体制がより充実したもになっている。	・キャリア教育では成果を上げており、連携協働体制ができていて、 さらに充実させるため、改善工夫に取り組んでほしい。	B
	日常的な業務		4.周知な事前準備と計画により、90%以上達成できた。 3.事前準備と計画により、80%以上達成できた。 2.事前準備と計画が十分でなく、80%以上の達成であった。 1.事前準備と計画が不十分で、80%未満の達成であった。	4	・事前の調整や内容の周知により、ほとんどの会議が1時間以内で終えている。分枝化に伴う諸準備のための調整会議も増えたが、効率的に実施されている。	・昨年度の反省を踏まえ、良く努力している。	A
	勤務状況	・業務量の均等化を図り、一部の教員に仕事が偏らないような組織づくりの推進	4.業務量の均等化が適切に図られた。 3.業務量の均等化が概ね適切に図られた。 2.業務量の均等化があまり図られなかった。 1.業務量の均等化がほとんど図られなかった。	3	・昨年度の反省に基づき校務分掌における各課の人数を見直し、進路指導課を3名から4名に増員した。 ・年度途中で人事の交替があり、業務量の均等化があまり図られなかった。 ・来年度以降の定数減を考え、さらなる見直しを進めている。	・業務の均等化を図るために、改善を行っていることは評価できる。分枝化に向けてさらなる改善工夫を期待したい。	B

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

<前年度からの課題について>  
「特色ある学校づくり・魅力ある学校づくりを推進し、満足度100%の学校づくりをめざす。」については、今年度卒業生とその保護者から、『佐波高校に入学して良かったか。』の問いかけに卒業生は76.7%、保護者は90%の『良かった。満足している』との回答を得た。また、『進路に満足しているか』の問いには、卒業生は83.4%、保護者は93.3%の『良かった。満足している』との回答を得た。この数字は、昨年度の結果よりも少し低下したが、自由記述の欄では、学校に対して感謝をしている旨の記述が多く見られ、本校の取組に対しての肯定的評価や応援のメッセージであると受け止めている。  
「個性豊かな生徒に対し、全教職員が連携協働し、きめ細やかな指導を推進し」については、生徒指導・教育相談連絡会議を開催し、連携協働に努めた。また、特別に指導・支援を要する生徒については、個別にケース会議を開き、さらにスクールカウンセラーや外部機関との連携を図り、全教職員が連携し、効果的に指導できた。また、『個別的教育支援計画』を作成し、長期目標と短期目標を設定し、その支援に努めた。この支援により、生徒の状況が改善されつつある。  
「3年間を見通した計画的な進路指導、特に個人データの継承方法等効果的な進路指導の推進」については、3学年の担任と進路指導課を中心に全教職員で取り組み、進学・就職ともに卒業生30名全員の進路を決定し、卒業させることができた。このことは、入学後の早い段階からのキャリア教育の効果があったと自負している。個人データの継承方法等については、進路面談記録や各種模試のデータの継承や活用について実施しているところであり、今後さらに研究し効果的に実施したい。「進路のしおり」については、昨年度末に見直しをし、生徒がより活用しやすい形に改訂した。また、昨年度から開始した1年生対象の「ライフプランセミナー」では、生徒一人ひとりのライフプランから見たキャリア教育に取り組んでいる。  
「本校のキャリア教育の中核となる『職場体験学習』等の検討・改善」については、社会人として生活する上で、より効果的な職場体験学習を目指している。実習のみならず、事前・事後指導の在り方にも研究・改善に努め、今年度も効果的な実習ができた。

「和やかな雰囲気のもと、教職員が生き生きと連携協働できる職場づくりの確立」については、円滑に業務は進行しているが、担当業務の偏りが生じ、一部の教員への負担が増大しているという意見があり、昨年度末に校務分掌の業務分担の見直しを図るために「教職員の業務の均等化・平等化を図るための検討委員会」の会議を開催した。今年度は校務分掌を見直し、少し改善されてきているという意見が多かった。来年度からの分枝化を考え、さらに見直しを図り、来年度は4課→3課体制の予定である。

<今年度の重点目標の達成度について>(上記と重複しない部分について述べる。)  
「社会の一員として生きていくために必要なコミュニケーション能力の育成」については、チャレンジ目標を「時間厳守、あいさつの励行、服装を整える」の3つとし、徹底を図るとともに、学校の様々な場面で生徒のコミュニケーション活動の推進を図った。チャレンジ目標の生徒自己評価アンケートの結果、それぞれの目標について9割の者ができたと回答しており、外部の評価も良くなってきた。しかし、服装については、一部の生徒にまだルーズな者もいるとも指摘された。今後、より徹底した指導に励みたい。  
「『生徒の夢の実現』を第一に考えた教師集団づくり」については、研修や授業改善を通して教職員の資質の向上を図るとともに、連携協働体制の確立に努めた。特に、校内外の研修の積極的な推進と授業研究を奨励するとともに、各分掌・学年間の連携を推進した。また、今年度は、防府地区の中高連携事業として、本校で「理科」の研究授業を行い、中高での課題解決に努めた。今後も授業力・教師力の向上につながる方策を進めていきたい。  
「地域に信頼され、愛される学校づくりの推進」については、学校HPの充実や学校行事等の積極的開放を行い、保護者並びに地域や中学校との連携を強化を図った。特にHPのブログの更新を活発に行い(毎月6回以上更新、合計71回更新)、情報発信に努めるとともに、文化祭をはじめとする学校行事におけるPTAとの連携を強化した。また、生徒が地域の行事等に参加したり、ボランティア等地元での活動も多く、地域に貢献することも奨励し、多くの生徒が参加した。多年にわたるボランティア活動の実践に対し、今年度厚生労働大臣表彰を受賞した。  
さらに、昨年度から、立ち上げた徳地地域小中高PTA連絡協議会では、地域のPTAが連携し、共に地域のこどもを育てていこうという機運が高まり、今年度は、交通安全運動・あいさつ運動を共同で実施した。

7 次年度への改善策

- 【学習指導】  
生徒一人ひとりの夢の実現に向け、本校教育の在り方について検討する。分枝化によって、福祉を選択科目としたが、生徒が混乱することのないよう科目選択の際には丁寧に指導を行う。参加しやすい体験入学・授業公開を目標に実施方法を検討する。
- 【生徒安全体育】  
規範意識の向上と自律心の醸成にむけて全体の指導と個々の指導をより効果的に進めるように工夫したい。生徒の主体的な活動に、さらなる援助と指導がとれる体制を確立し発展させたい。
- 【進路指導】  
保護者との連携を図るため、保護者に進路について理解を深めてもらう機会を作る。生徒個人個人の進路情報を全教職員が共有し、共通理解が図れるようにする。今後も3年間を通じて計画的にキャリア教育を推進し、各分掌・教科が連携してキャリア教育に取り組む。
- 【教育相談】  
生徒一人ひとりのきめ細かな状況把握と的確で迅速な対応を図るために、教職員間の情報交換をさらに充実させる。保護者との連携を深めるため、定期的「たより」を発行し全体への情報提供をより充実させる。教職員の教育相談や生徒指導の力量のさらなる伸長に資するためSCを十分に活用していく。
- 【業務改善】  
教職員の連携をさらに向上させる取組を続ける。業務量の均等化を図るべく校務分掌の改善を行う。完全分枝化に対応するため、各校務分掌の分担業務や人員配置にも再検討を加え、教職員一人ひとりの能力や適正を見極めながら、配置するよう努めたい。

A: 優れている・・・教職員の取組が優れていると認められる状況  
B: よい・・・教職員の取組がよいと認められる状況  
C: 概ねよい・・・教職員の取組が概ね行われていると認められる状況  
D: 要改善・・・教職員の取組に対して改善が必要な状況